

発刊にあたって

市長 宮間満寿雄



昭和十八年に松戸市が市制施行して以来、昨年は三十五周年の記念すべき年にあたりましたので、各種記念行事が行われました。

当初四万有余人であった人口も現在では三十七万人を数えるに至り住宅都市としての態様を整え、中堅都市に発展してまいりました。

私は市長就任以来この松戸市を「誰もが住みたくなる街、一度住んだらいつまでも住んでいたくなる街」にすべく努力してまいりました。

都市づくりの基礎である松戸市第一次総合五か年計画も市民の皆様のご理解とご協力によりほぼ完遂することができ、さらに多くの市民参加のもと、二十一世紀の松戸市のあるべき姿を求めた「松戸市長期構想」が決定されましたことは三十五周年に際しての何よりの記念であろうと存じます。

さて本市では三十五年間の動態の記録として、先に刊行された縮刷版に続き昭和四十三年以降の「広報まつど」の縮刷版を刊行することになりました。

市民の皆様がこの縮刷版が「温故知新」の書として本市が歩んできた歴史を知り、今後の松戸市の指針となれば幸いです。

私ども市勢発展のため更なる努力をお約束するとともに皆様方の一層のご協力をお願い申し上げます。私のご挨拶といたします。